九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告 : 第13巻

https://doi.org/10.15017/4403550

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 13, 2017-03. TENDEC Office
バージョン：
権利関係：

1. はじめに

平成 15 年 2 月に初めてのプログラムを実施して以来、私共の国際遠隔医療教育活動は今年 1 月で 700 回目の節目に達しました。参加機関も 57 カ国、507 施設となり、開始当時からは想像もしていなかったレベルへと広がってきています。

今年度の第 1 の成果は、南米諸国との活動が日本学術振興会の科学研究費（A）により公的なものとして開始されたことではないでしょうか。南米とは平成 21 年より DVTS による接続を試みましたが、当初は思うような画質が得られず大変苦労しました。しかしながらブラジルにおける FIFA ワールドカップやオリンピックの開催とも重なり、情報通信技術の急速な進歩と共に状況も少しずつ改善されてきました。今回の南米に特化した形での研究費の獲得は、この地域における共同研究の進展に大きく寄与するものと期待しています。

第 2 の成果は、アジア各国内におけるワークショップの開催とその後の活動意欲の高まりです。7 月と 8 月にそれぞれフィリピンとインドネシアにおいて、全国の主要医療施設から医師と技術者を招待し、各施設からの発表と議論を行いました。その結果、インドネシアでは僅か 2 ヵ月後の 10 月から、それまで一度も参加したことのない多くの病院を含め、毎月 10 施設を接続して消化器疾患に関する症例検討会が始まっています。

また今年度はアジア遠隔医療シンポジウムも第 10 回目を迎えることができました。これまでは日本と韓国を除けばタイのみが開催地でしたが、今回は初めてベトナムがホストを務め、ハノイで盛大な会を開催しました。来年度はマレーシアでの開催が既に決定し、開催地も日韓以外のアジア諸国へ広がってきています。

今年度も 100 回に及ぶ様々なプログラムが施行されましたが、中でもハイライトは 11 月に神戸で開催され 2 万人を越える参加者を集めた消化器関連学会での 3 日間に渡る内視鏡のライブデモンストレーションでしょう。学会関係者との 1 年前からの周到な準備の甲斐もあり、プログラム的にも技術的にもこれまでで最も素晴らしいプログラムの一つとなりました。内視鏡の手技を自施設から発信することにより、患者さんと医療者双方のリスクを軽減できるのみならず経費をも大きく削減でき、今後の積極的な活用が期待されます。

新たな試みとしては、地元で開発された動画共有システム JoinView や海外との遠隔医療相談の本格的な開始があります。いずれもまだ解決すべき問題点はありますが、今後大いに推進する予定です。

今年度も数多くの人事交流を通して活動推進への協議を重ねてきました。その中から今後も常に新たなニーズを発見する「Needs first」の精神で、より良いプログラムを作り続けて行きたいと思います。

平成 29 年 3 月

九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター　センター長

清水周次